

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

○ 入学時の学力を維持・向上させ、全学年が県平均(偏差値50)以上を目指す。

3. 指標にむけての取組

義務教育学校1年目となるという機会をとらえ、以下の取組を行った。

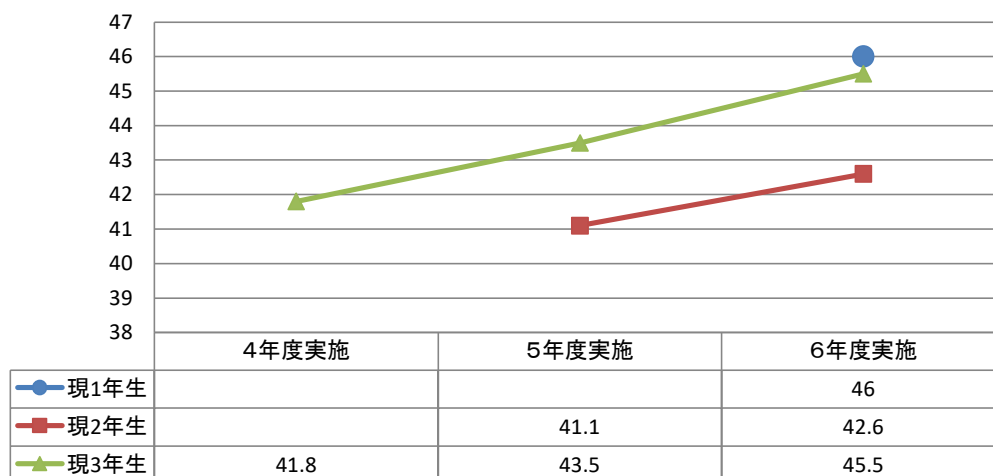
- ①思考力・判断力・表現力等の向上のため、授業改善の取組を行う。主題研修係が中心となり、全教職員一人最低一回の研究授業を行うなど組織的に取り組み、生徒の学力向上につなげる。
- ②知識・技能の確実な定着のため、学力向上・保障推進委員会による組織的な学力向上の取組を行う。特にこれまで行ってきた取組を再度見直し、必要な取組を再構築する。具体的には、単元テストの導入により指導と評価の一体化を目指すことを柱に、補充学習や稲東タイムの活用の仕方を学年ごとに見直す。また、ノースマホ・ゲームデーの継続や自学ノートの改善等も行っていく。
- ③学びに向かう力の向上のため、生徒指導委員会を中心に規範意識向上を目指す。生徒指導の四つの視点を生かした積極的生徒指導を行う。具体的には、児童生徒会を中心に児童生徒主体の活動や異学年交流など義務教育学校の特色を生かした取組を実施する。
- ④①～③の取組を推進するため、毎週木曜日に、会議や研修を行い、実態把握や取組の周知徹底に努める。また、7年開始時での学力低位状態の回避のため、乗入授業や一部教科担任制等小中協働した取組を行う。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
本校(A)	46.4	45.7	44.1	42.4	44.7
嘉麻市(B)	48.6	47.1	46.0	45.5	45.8
(A)－(B)	-2.2	-1.4	-1.9	-3.1	-1.1
標準偏差値との差 (A)－(50)	-3.6	-4.3	-5.9	-7.6	-5.3

各学年の推移



5. 各学校における分析

数値データを分析すると、義務教育学校1年目の学力向上の取組の成果が表れたと考えられる。

①授業改善については、小中一貫した授業スタンダードを作成し、教育委員会の指導主事にも指導を受けながら、小中全教員が研究授業を行うことで、小中連携も図られそれぞれの教師のスキルアップにもつながった。

②組織的な学力向上策に取り組んだ結果、R5年度から現3年生(9年生)で+2.0ポイント、現2年生(8年生)で+1.5ポイントの伸びが見られた。依然として、県平均には届いていないものの、5年連続で低下していた学校平均も今回上昇した。特に、数学科及び英語科においては、分割授業等を行い個に応じた授業を行うことで、学力向上の成果が数値として顕著に表れた。

③生徒の実態の応じた積極的生徒指導の取組により、学級は一定の落ち着きを保っている。また、不登校生徒に対しては今後も継続した支援及び新たな不登校を生まない支援が必要である。

④小中連携の取組においては、6年生への乗入れ授業等の成果により現1年生(7年生)のポイントも増加した。義務教育学校として、教員の協働した取組の成果と考える。今後は、7年次での県平均を目標に、さらに取組を進める。

6. 各学校における今後の取組

「学力向上」を「本校の最重要課題」と捉え、昨年度の取組を継続発展し、以下の取組を行う。

①思考力・判断力・表現力等の向上のため、授業改善の取組を継続する。主題研修係が中心となり、全教職員一人最低一回の研究授業を行うなど組織的に取り組み、生徒の学力向上につなげる。

②知識・技能の確実な定着のため、学力向上・保障推進委員会による組織的な学力向上の取組を行う。特にこれまで行ってきた取組を再度見直し、必要な取組を再構築する。具体的には、単元テスト及びその事後指導により指導と評価の一体化を目指すことを柱に、補充学習や稲東タイムの活用の仕方を学年ごとに見直す。また、ノースマホ・ゲームデーの取組等も継続して行っていく。

③学びに向かう力の向上のため、生徒指導委員会を中心に規範意識向上を目指す。生徒指導の四つの視点を生かした積極的生徒指導を行う。具体的には、児童生徒会を中心に児童生徒主体の活動や異学年交流など義務教育学校の特色を生かした個別最適及び協働的な学びを実現する。

④①～③の取組を推進するため、毎週木曜日に、会議や研修を行い、実態把握や取組の周知徹底に努める。また、7年次での県平均を目標に、理科に加え、英語科による乗入授業等、小中協働した取組を継続・発展させる。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、年3回(4回)実施する標準学力分析検査ごとに結果を分析し、学力向上の取組を改善していくことを通して、効果的な学力向上の取組を構築していくよう指導する。また、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆単元や学習のまとまりを単位とした短いスパンでの学習定着状況の把握と個に応じた指導の工夫を推奨する。そのために、単元に小テストや単元テストを位置付け、トリプル80を視点から評価を各学校において確実に実施するとともに、それらをもとに取組の検証改善を図る校内学力検証委員会の充実について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した家庭学習を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。